

鳴海周平の

ぶらり旅

北海道・マジカル(マジ軽っっ)ツアー編

本誌健幸タイム(8ページ)にもご登場いただいている高島亮さん主催の「マジカル(マジ軽っっ)ツアー」(9月19日〜21日開催)に参加させていただきました。

札幌市から小樽市、余市町を巡り、洞爺湖で宿泊。有珠山に登頂後、室蘭市の地球岬を経由して新千歳空港へ、という総移動距離約400kmに及ぶ、まさにマジカル(マジ軽っっ)ツアーの始まり、始まりっ!!



有珠山山頂から望む洞爺湖と昭和新山。陰と陽のひな形をあらわしているようでもあります。



遊覧船で渡った中島の洞爺湖畔にて。

今回の旅には「癒しの三王子と行く！」というサブタイトルがついていました。「癒しの三王子」とは、主催者の高島亮さん、作家のひすいこたろうさん、そして、なぜか私・鳴海周平(笑)。今年の立春に渋谷で開催されたこの3人によるコラボ講演会で、主催者の荒井紋子さんが命名してくれました。

「いやしい、ですか?」とか「いやらしい、ですか?」とか「三王子、ってなんですか?」などという、もはや人ではなくなっている勘違いもあった中、ご参加いただいた皆様にも少しでも「癒し」を感じていただきたく、今回訪れるスポットを選定しました。

最初に訪れたのは、自然食品の店まほろばさん。浄水器「エリクサー」の開発元としても知られる、今年で開業35周年を迎えた全国でも草分け的な存在です。

お店の奥にある「無限ハート」のスペースで、常務取締役の島田浩さんから、古代日本や縄文文化、徐福伝説などについての興味深いお話も伺うことができました。

じつは、まほろばさんへ向かう車中で、ひすいこたろうさんが話していたテーマが「縄文」。自然を神として敬い、1万年もの間、



自然食品の店まほろばさん。お店そのものがパワースポットです。

争いがなかったとされる時代の世界観は見習うべき点が多い、というお話でした。島田さんとのシンクロに驚きながら、この後に訪れたのも「忍路環状列石」「フゴツペ洞窟」という、これまた縄文時代の遺跡。今回の旅のテーマには、どうやら「縄文」というキーワードも含まれているようです。

小樽市街を観光後、名水の里・京極町を経由して、宿泊先の洞爺湖へ。移動の途中で見えた羊蹄山も、感動ものの美しさでした。



縄文時代のエネルギーが感じられる小樽市の忍路環状列石。

翌日は、遊覧船で洞爺湖の中島へ渡り、その後の有珠山では、火山の噴火口まで登頂。湖(水)と火山(火)という陰陽のエネルギ―を、全員でしっかりとチャージしました。

旅の締めは、室蘭市の地球岬。ここから、かつてこの星に存在していた楽園「縄文」に思いを馳せて、地球全体の調和を祈り、ツアーの全行程が終了となりました。

解散地の新千歳空港では、参加者の皆さんから、次のようなお声もあつたようです。

「縄文、陰と陽、地球の調和。どれも重要なテーマなのに、なんだか楽しくて、軽〜い感じの旅でしたね」

はい、だって「マジカル(マジック)ツアー」ですから。

主催いただいた高島亮さん、ゲストのひすいこたろうさん、ご一緒いただきました皆さん、楽しいひと時をどうもありがとうございました。



旅の締めは室蘭市の地球岬。



夜は花火大会が開催されていました。



羊蹄山は、その美しさから蝦夷富士とも呼ばれています。



縄文時代の貴重な遺跡が多数遺されているフゴツペ洞窟。有名なこの絵には宇宙人説やシャーマン説などがありますが、あるお笑い芸人さんは「海が近いので、ワカメ乾かす係」と言っていました。